

田名綱敬一 記憶の冒険

国立新美術館（六本木） 24.08.07～11.11



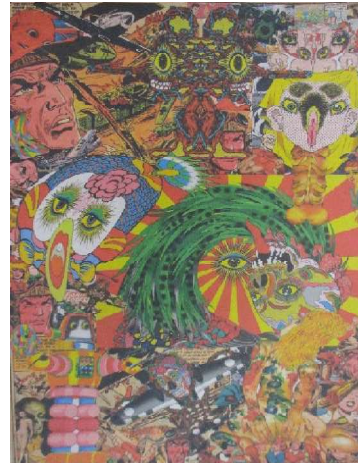
「田名綱敬一」(1936～)は、幼少期に経験した戦争の記憶とその後に触れた米国大衆文化からの影響が色濃く反映された“色彩豊かな作品”で知られる。

「画伯田名綱」は、国際的に高い評価を得るアーティストで、本展は当時の資料を含めてこれまでに画伯が手掛けた膨大な作品を紹介し、これまで包括的に捉えることがなかった60年以上におよぶ活動を「記憶」というテーマの基に紐解こうとしている。

さらに、アンディ・ウォーホルの美術やデザインといった一つのメディアに限定しない制作方法に大きな刺激を受け、自らを「イメージディレクター」と名乗り、シルクスクリーンによるポスター、コラージュ、アニメーション、イラストレーション、絵画などの作品を精力的に手掛けて、他の追従を許さない地位を築いている。

〈見どころ〉

1. 日本の戦後文化史と密接に結びついた作品。
2. 増幅を続ける「記憶」。
3. 変幻自在なコラボレーション。



《キリコ劇場》 2009年 アクリル絵具/カンヴァス 左

《気配》 2022年 クリスタルガラス/カンヴァス 右

《森の掟》 2024年 アクリル絵具/カンヴァス チラシ

「チラシ図」の青と赤のコントラストは、終戦直後に東京で見た青空と赤茶けた焼け野原との強烈な対比がルーツになっている。

朝日新聞（24.08.05）朝刊に、本展の紹介記事が掲載されている。